

ひびき通信

平成 25 年
12 月版

認知症ケアのために介護職に読んでほしい本を紹介

三好春樹さんの「認知症ケアのために介護職が読むべき本」と題したセミナーが、十一月十日、当センターで開催されました。セミナーには神奈川県だけでなく、山梨県や埼玉県など他県からケアマネージャーや介護職、看護職など二十名が参加。文化人類学や哲学、ノンフィクションなど、三好さんが読まれた書籍を通して、認知症ケアに欠かせない思考や視点を学びました。

認知症ケアを豊かにする 発想や思考を本から学ぶ

第一部では、認知症の問題行動を脳の病気としてだけで捉えるのではなく、本人と周囲の環境や他者との関係の障害であるという視点で捉え直すこと。そのために不可欠な考え方として、三好さんは、問題行動を異常と捉え、排除や制



レヴィ・ストロースの「野生の思考」を手にしながら、講演する三好春樹さん

御しようとするのではなく、問題行動を「異文化」と捉え、それぞれの行動に意味や価値があるものとして位置づけることが大切であることを話されました。

三好さんが、こうした考え方を持つきっかけとなった書籍が、フランスの文化人類学者レヴィ・ストロースが著した「野生の思考」や「悲しき熱帯」です。

このほかに、「狼に育てられた子どもに「人間らしさ」を取り戻そうと再教育した医師の記録をまとめた「アヴェロンの野生児）」や、アマゾン奥地に暮らす裸族のド

十二月恒例のクリスマス・バイキングが今年も二十四、二十五の両日にデイサービス響のフロアで開催されます。今年のメニューは、ちらし寿司に焼きそば、サンドウィッチをはじめ、

恒例のクリスマスバイキング

24、25 日開催

ミートローフ、白身魚のフリッター、茶碗蒸しなどのほかに、イチゴやミニケーキなどデザートも盛りだくさん。スタッフもご利用者もいまから楽しみにしています。

ワインとフランスパンを楽しみながら



第二部では、参加者全員で車座になり、ワインとフランスパンを楽しみながら、三好さんと語り

文化人類学や哲学、ノンフィクションなど

キュメンタリー「ヤノママ」、フランスの哲学者で父親の介護を経験したことから独特の実存哲学を

三好さんが読まれた本を通して 介護に不可欠な柔軟な知を体感

ました。写真。三好さんは「異質なものに触れる経験を積むことは、介護を豊かにする上で不可欠な介護の感性を磨くことにつながります」と、さっそく来年二月に実施するインドツアーをアピール。自身の旅先でパスポートを紛失したり、物乞いに取り囲まれて右往左往したりと、異文化にふれるインドツアーのエピソードで大いに盛り上がりました。

を追求したジョルジュ・バタイユの「エロチシズム」をはじめ、日本や海外の神話の世界を通して人間の思考に迫る中澤新一の「人類最古の哲学」など、文化人類学から哲学、ノンフィクション、小説まで幅広い分野の三好さんの話に、参加者たちは、熱心に耳を傾けていました。